

みんなの森 通信

Vol. 4 4



2026年2月発行

社会福祉法人 みんなの森福祉会
理事長 大嶋 弘之

ホームページに
ジャンプできます



どんぐり保育園	浜松市中央区中郡町 1872	TEL 053-433-5330
くすのき保育園	浜松市浜名区高畑 897	TEL 053-589-3340
まつのき保育園	浜松市中央区西伊場町 7-5	TEL 053-488-6166
小規模保育事業所 みかんの家	浜松市中央区西伊場町 7-4	TEL 053-488-6167
児童発達支援事業所 「ころころ」	浜松市中央区中郡町 1802-2	TEL 053-424-6262
児童発達支援事業所 「ころころ伊場」	浜松市中央区西伊場町 7-5	TEL 053-488-6169

～保育問題研究協議会 研究学習会に参加して～

11月、県内複数の保育園職員がグランシップ（静岡市）に集まり、1日かけて学習しました。当法人からも47名の職員が参加し「乳児保育」「あそび」「美術」の分科会でそれぞれ実践発表をしました。

他園の保育実践も聞くことができ、学ぶことで自分の保育を振り返り、明日からの保育に生かせる有意義な学習会となりました。

気持ちの良い排泄自立を目指して

～くすのき保育園0歳児の保育実践～

育児環境や子育てに対する考え方の変化、性能の良い紙おむつの普及など、様々な要因により近頃の排泄自立は、随分ゆっくりになっていると感じています。

実践報告では、歩行が安定した早い段階から綿パンツで過ごすことでまずは自分から排泄物が出るという事を知る、そしてその感覚を脳で認識することが排尿感覚の発達につながっていくということでした。トイレやおまるに座って排泄することが自然な行動として身につけられることで排泄に抵抗感なく気持ちの良いものとなり、すっきりした気持ちで活動に向かうことができるようになる。すると友だちや大人と夢中で遊び込める時間ができ遊びが充実したものになるのだということ学びました。排泄自立の取り組みの大切さを改めて感じました。



アゲハ蝶の飼育を通した日々の感動体験 ～飼育活動での子どもの姿と成長の変化

～まつのき保育園4歳児の保育実践～

子どもの発見や疑問から始まった飼育活動。子どもが「なんで？」と疑問に思ったことは聞いたり、調べたり、謎解きをしていきました。その中で色々な発見をする子どもたちの目はキラキラ輝いていました。

数人から始まった遊びがやがてクラス全体に広がり、子どもも大人も一緒に虫の変化を楽しみ、ワクワクする毎日を送った実践でした。この実体験を通し、感動したり、ドキドキしたり、心が動く経験を経て、子どもたちは色々な感情を表わし、仲間と繋がっていきました。



子どものあそびが始まるきっかけはこれ！と決まっているわけではありません。日々の生活の中にあそびが溢れています。子どもたちが面白い！と感じた瞬間にあそびが始まり、あそびの中で心を動かし、仲間とともに成長していきます。あそびの分科会ではまさに全体のテーマである「あそびから子どもは何を学んでいるのか」を深める交流になりました。



「絵を聴く」～子どもの心と出会い、共に育つ

～どんぐり保育園5歳児の保育実践～

子どもにとって絵を描くことは自分の心を表現するものです。その子がどんな思いで描いているのか、何を伝えたいのか、大人は寄り添いながらその思いを聴く「絵（心）を聴く」ことを大切に考えています。

絵がなかなか進まなかった子が大人との丁寧な対話の積み重ねにより思いを表わすことができるようになり、イメージが具体的なものへと膨らんだことで、描きたい思いにつながりました。まさに心を聴いたことで変化した子どもの姿の報告でした。

